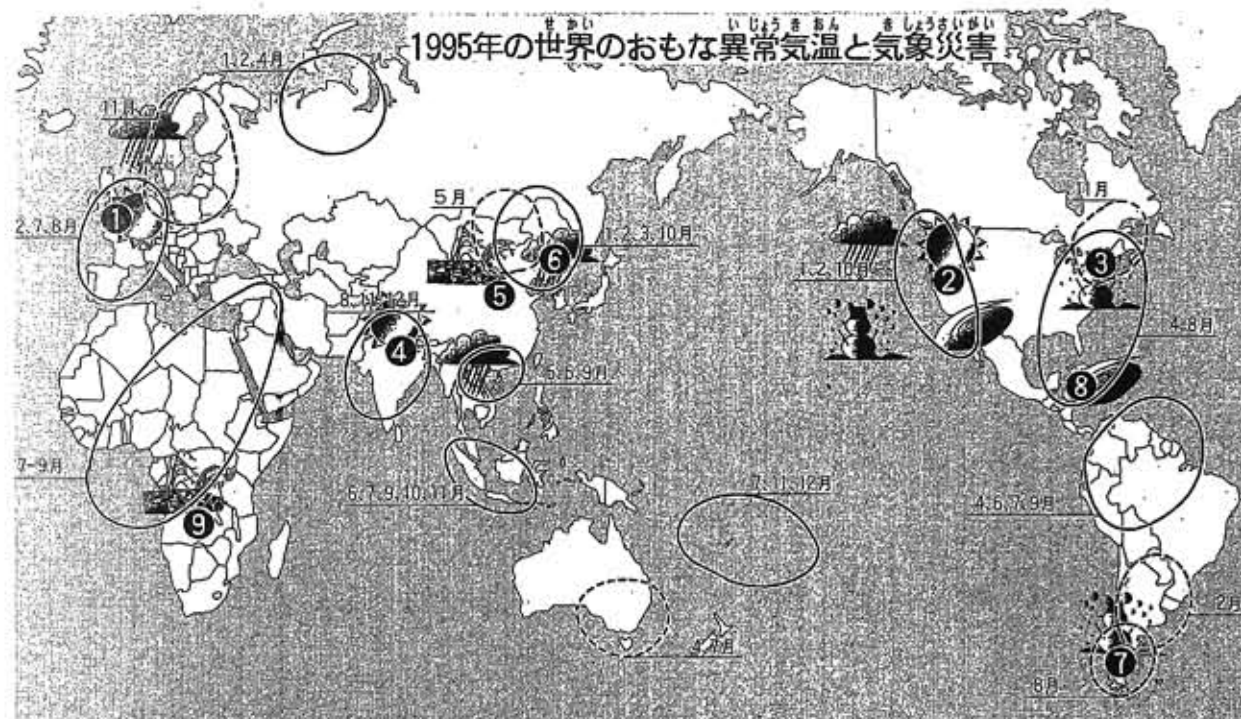


「異常気象」

熱波や寒波、洪水

去年、世界各地で相つぐ



1995年の世界のおもな異常気象と気象災害

○ 高温 ○ 低温

(気象庁の「気候系監視報告」をもとに作成)

①ヨーロッパ<1月>西部の長雨でライン川が決壊。<6~7月>イギリスで20年ぶりの暑さ。パリで1976年以来の高温。スペインでも高温で数十人が死亡。②アメリカ中西部<3月>カリフォルニア州で暴風雨による洪水。12人が死亡、20億ドルをこす被害。<4月>中西部で気温の低下、季節はずれの大雪で農作物に被害。<5月>中西部の洪水・竜巻・雪で多数の死傷者。南部でも洪水。<7月>中西部で連日40度近い熱波。アメリカ全土で650人以上が死亡。③アメリカ東部<11~12月>五大湖地方や東部で吹雪。寒波・積雪のため空港がとじられ、交通障害もおきる。④アジア南部<4~6月>インドで連日40度をこえる高温。インド・アジア大陸で800人以上が死亡。<5~10月>モンスーン活動や台風などで大雨。インド、バングラデシュで国土の大半が水に浸す。⑤中国<~7月>1949年以来史上2番目の規模の干ばつ。<5~7月>大雨で長江流域が洪水にみまわれる。<8月>北部で「今世紀最悪の洪水」。⑥北朝鮮・韓国<7~8月>朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)で大洪水。韓国では大雨と洪水で50人が死亡。⑦アルゼンチン・チリ<8月>チリ南部で豪雪・強風などにより家畜20万頭が死ぬ。アルゼンチンでも寒波でヒツジ25万頭に被害。⑧カリブ海周辺<9月>今世紀最大といわれるハリケーンがプエルトリコをおそい、大きな被害が出た。⑨アフリカ<10月>南部を中心に各地で干ばつが続き、農作物に大きな被害。

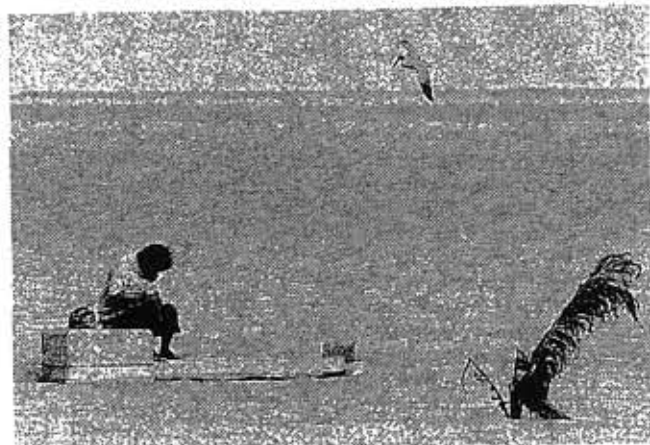


インドの熱波、アメリカのハリケーン、アフリカの干ばつ――去年は世界各地で「異常気象」が相つぎました。家畜や農作物、交通機関などへの影響だけでなく、多くの死者が出た地域もありました。なぜ異常気象がおきるのでしょうか。はっきりした原因はわかっていませんが、ここ数十年、地球の気温がはいペースで上がっていることは確かです。(松本 宏樹)

多数の死者出た地域も

地球の温暖化が原因?

「異常気象」は、過去三十年間の平均的な気候から大きくはずれた気象のことです。「異常高温、異常低温、異常多雨、異常少雨」などをさします。異常気象の原因として一般的に考えられているのは、海面の水温があるエルニーニョ現象、太陽の活動、火山の噴火、火、地球温暖化などです。しかし、一九九一年から九二年にかけてあらわれたエルニーニョ現象や九一年のフィリピン・ピナツボ火山の爆発の影響は終わり、去年の異常気象の原因とは考えられないと、筑波大学地球科学系教授の安成三先生はみています。安成先生によると



去年は、東太平洋が低温で西太平洋が高温という、エルニーニョ現象とはまったくくきやくの気候でした。アジアのモンス

洋のハリケーンなどがおきたと説明はできると思います。しかし、なぜ異常気象がしばしばおきるのか、根本的な原因はわからないそうです。「たしかにいえるのは、地球の温度があがってきていることと、地球温暖化の原因になる二酸化炭素がふえていること」と安成先生はいます。

気象庁が一九九四にすすんでしまった公園のベンチにすわる住民。去年十月、メキシコ南部のカンペツェ州で、ロイター・サン

年に発行した「異常気象レポート」によると、ここ数十年間の地球の気温は、過去百年間でもっとも高くなっています。地球の気温は百年に約0.5度の割合であがっています。が、七〇年以降はその十倍のペースであがっている地域が各地にみられます。地球温暖化の原因は、人間がガソリンや石油などを使うことでふえる二酸化炭素です。大気中の二酸化炭素は、地面からの熱を吸収して気温をあげる性質があります。世界各国は一九九二年に「地球温暖化防止条約」をむすび、二酸化炭素をあまり出さないようにする努力をはじめました。